

フラグメンツ

フィリペ・アレクサンドル・デ・アン
ドラーデ・サ・モウラ

Frà me\$ tos

Frà me\$ tos

フィリペ・モウラ

断片

著作権© フィリペ・モウラ

カバー

ロドリゴ・ロハス

Fragments / Filipe Moura - São Paulo: LivroPronto, 2010.

ISBN 976-85-7869-142

第1版

この著者は次のようなサポートをしている

◦



filipe.sa.moura@gmail.com

インデックス

フラグメントⅠ	13
フラグメントⅡ	24
普通	36
あなた	38
お父さん	40
父と息子	41
涙	42
夢	42
パー	44
人生	47
愛	49
壁	51
考える	55

友情	57
学習	59
リビング	68
深い愛	76
マスク	77
お土産	79
と感じた。	80
恋人	81
リフレクションズ	82
快晴の夜	83
執筆	84
死	85
深淵	87
待機中	88

階段	89
本社	90
存在	91
日	92
リボーン	93
見る	94
終了	95
生きること死ぬこと	96
リーバー	97
中断	98
である。	99
欠席	101

フラグメントⅠ

凍てつく北の大地で、閉じこもり、さらけ出す。

忘れ去られた時の暖かい毛布。

電撃寒

緩やかでつながりのない記憶から 虚構的で実存的な音が

広がり リズムの温もりが解き放たれる

自己を侵す時

そして、熱のない暑い世界を探検する

冷えてくると、大気は同じではなかった

球体がコーナーに転がる



海中の傾斜点

地表から灼熱のマグマの内部、そしてジャングルを探検し、感動を与える。

印象的なレジャー、それ以外に言いようがない

それは言葉であり、熱い言葉であり、とても冷た

い言葉である。

春と谷の暖かい夢、

笑いのない川 見つかるのを待つ傷ついた希望

そして、ゆっくりと創作し、見せることによって、欺くもの、暗示するものを示す。

距離がなければ想像できないこと

そして、正しい方程式を使えば、すべての問題が解決する

非常に熱く、やけどのような音さえる。

文化への渴望に振動するギター

その果実が生まれ、多かれ少なかれ鋭敏である。

滅びることなく、彼らは状況を解決する。

沈黙のサーテンを伝える言葉の病的さ、

これは、「言っていない」という疑念を抱かせるため

だが、効果的に伝わる。

意味と書き方。

すべての真実は、その間に真実はないということだ。

思考、行動、そして自分自身の見つけ方



行動を通して

それはドライバー自身のために作為と策略を生み、ドライバー

は自分が無意味だが正しいという言葉の幻想に身をゆだねてい

ることに気づく、

信じられないよ

しかし、どのような形であれ、その根底にはある行為がある

。

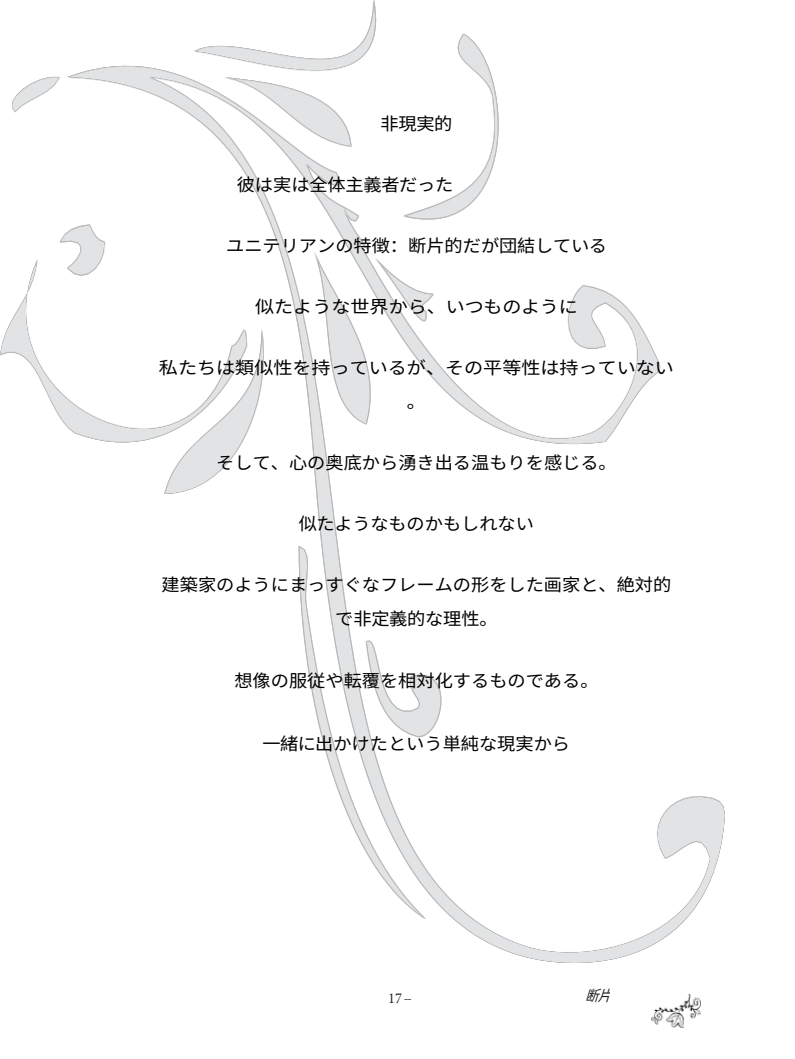
状況が成長するのを見て、それに対して何をすべきかを知る。

説明、視覚、感覚、私たちはしばしば、自分が考えていないこと、見ていないことを口にする。それは、他の人たちや、同じような、あるいは似たようなサインから、どうすればいいかを
知り、学ぶことである。

あるいは、追加という形で ミッション

の例を挙げよう。

あらゆる抽象的な形態感覚



非現実的

彼は実は全体主義者だった

ユニテリアンの特徴：断片的だが団結している

似たような世界から、いつものように

私たちは類似性を持っているが、その平等性は持っていない

。

そして、心の奥底から湧き出る温もりを感じる。

似たようなものかもしれない

建築家のようにまっすぐなフレームの形をした画家と、絶対的
で非定義的な理性。

想像の服従や転覆を相対化するものである。

一緒に出かけたという単純な現実から



自然な機知とどうでもいいような鋭さ、過酷な過去の現実
のような、何もかもが純粋な未来に運ばれていく。

無意識のうちに、そしてかなりの確率で、それは常にイメージ
を思い描く言葉の経験の中で、その獐猛さを発揮する。

荒廃とは、断片で武装された注意力に

よって捕らえられた瞬間である。

見よ、意識は現在と結びついている。

地平線の線のようにまっすぐに

太陽が沈むと隠れてしまう。

敗れはしたが、後悔はしていない

太陽は再び昇り、最も明るくしなければならなかった。

光り輝き、エネルギーに、細部に至るまで、わずかな感性
に無批判に、ただひとつひとつの単語をその意味とともに記憶
することによって、それは始動する。

その忍耐の静寂の中で、投影されてはいないが、いかなる非合
理的な本能も欠落した、暗い千里眼を抱いている。

虚構の世界に常に存在するアキレスのように、自らを築き上げ
、柱を維持する。

それは、誰も気に留めることなく、私たちに提示され
る。

このような自己のスパイは、悪評という私の賛美であり、
厳しい現実である。

機関車のエンジンを暖める



この非常にクレイジーでディープな旅では、トンネルを抜けると、暗闇の中で再び遠くが見えなくなる。
そのイメージと光り輝く終わりを、ただ待っている。

何が私たちを動かし、駆り立てるのか

そして、信頼できないほど魅力的で、知ることが難しく、決して学ぶことができない、決して壊れることのない力。

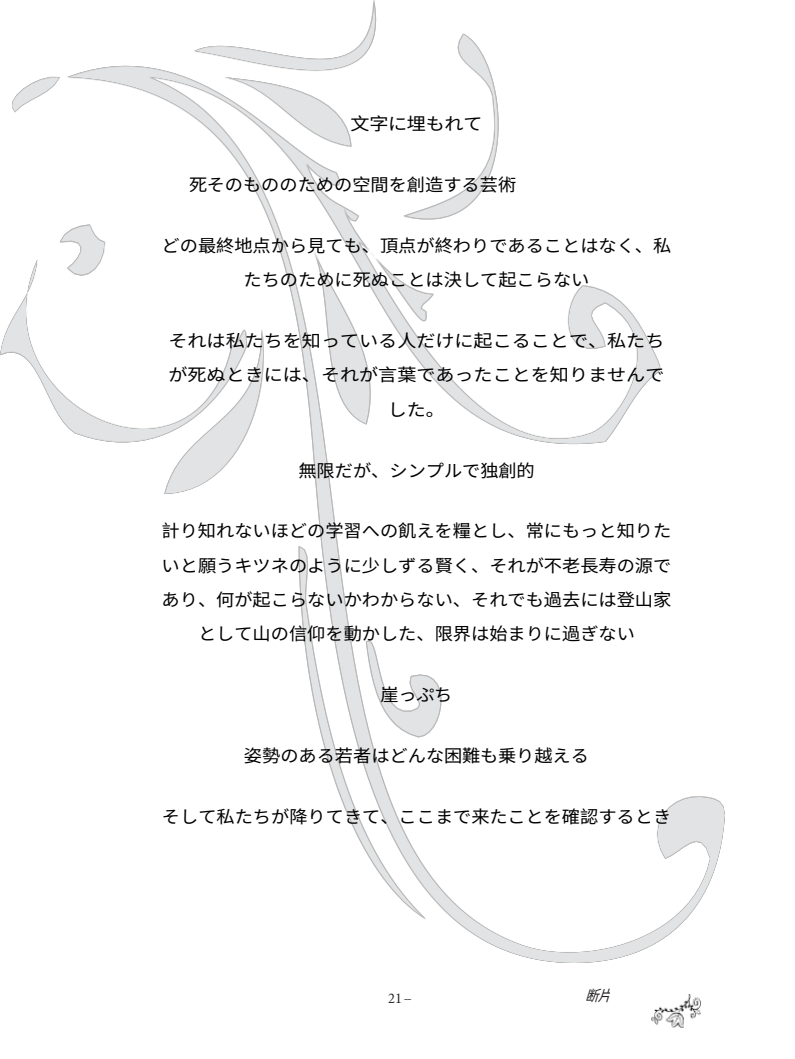
網が破れたが、再び網が形成されたとき、それは弾力性があり、物語の中の事故のように、若くして彼を殺した深い一撃、根底にある憎しみがあった。

しかし、誰に対しても、彼らの心に対しても、誰に対しても、決して無関心ではない。

インテリジェントな彼は、私たちは皆、自分自身の集合体であり、これからもっと多くの人々がやってくると皆に言った

。

その本来の性格とは異なり、また似ているが、実際、すべての演技と劇の中に人形があり、旅がある。



文字に埋もれて

死そのもののための空間を創造する芸術

どの最終地点から見ても、頂点が終わりであることはなく、私
たちのために死ぬことは決して起こらない

それは私たちを知っている人だけに起こることで、私たちが
死ぬときには、それが言葉であったことを知りませんでした。

無限だが、シンプルで独創的

計り知れないほどの学習への飢えを糧とし、常にもっと知りたい
と願うキツネのように少しずる賢く、それが不老長寿の源で
あり、何が起こらないかわからない、それでも過去には登山家
として山の信仰を動かした、限界は始まりに過ぎない

崖っぷち

姿勢のある若者はどんな困難も乗り越える

そして私たちが降りてきて、ここまで来たことを確認するとき



ただ知ることを征服することで、もう少しだけ存在
することができる。

そして決して負けたくない。

飛ぶことを学び、想像することを学んだからこそ、私たち
は決して落ちることはない。

すべてが、すべてが言葉

だ

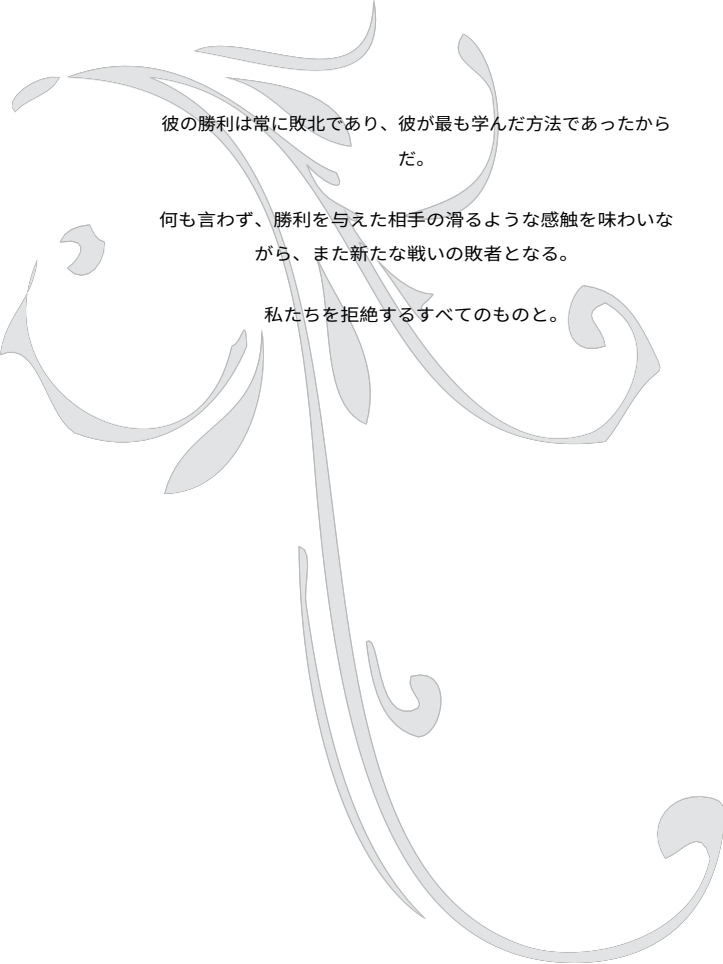
断片、アイデア、思考。深い水

確実性のない主題を暗示することによって欺く技術

海はまるで魔法にかかったように、エネルギーで

感傷的な明るさから、少し濡れて柔らかくなった。

一瞬の出来事からまた新たな発見



彼の勝利は常に敗北であり、彼が最も学んだ方法であったから
だ。

何も言わず、勝利を与えた相手の滑るような感触を味わい
ながら、また新たな戦いの敗者となる。

私たちを拒絶するすべてのものと。



フラグメントⅡ

急降下、沈没、階段井戸

金属製の階段がきしむ

床には雑巾とバケツ、

大理石の四角い壁が四つにれ、一滴、また一滴と落ちていき、
その奥で誰かが床を軽く揺らす。

鈍い光、無力、水面に浮かぶ一本の下駄

影の効果を持つ一筋の光、ガラスに映る顔、碎け散る視線、一
回の飛び込み、難破、息苦しさから救ってくれるブイの出現
、狂気、脱走、そして迷子。

星々と深淵の空虚の間で

恐れよりも先に、苦悩と存在の充足において、態度の面での
美徳がある。

下りの道、駐機場の上を飛ぶ。

最初の音、最初のイメージ、泳ぐヒレの虚無の深い響きの音
。

水の中で、私はついにジャンプする。

吹き荒れ、引きずり込まれ、消えゆく幻想の中にあるすべて
が、一瞬、違っていた

深みのある、液体で塩辛い海の中で、無色の鉛筆の筆跡は役者だ
った。

ショーはパーティーでクライマックスを迎える

嬉しいプレゼント、ベッドの上のパジャマ、こぼれたベッド

それは、風景のないイメージであり、吸い込むことによ
って、知覚が変化したものである。

透明で、涙がなく、線がなく、規則がない、



何もない、何もない、成長しない物語。

登場しないし、ナレーションもほとんどないし、鎖と南京錠
だらけで、本当に縛られている。

パチンコで的を射れば、射程距離のない矢のように気絶させら
れ、結び目には縄がかかる。

こぼれ落ち、失禁し、ぼやけ、決して消すことのできない筆
跡。

そして、持っている者は常に持っていたいと思い、心の奥底で
は、荒い髭を生やし、口髭を生やし、髪を1本、1本、また1本と
生やした存在でしかない。

それぞれの顔から、タッチから、それぞれの債務超過から、彼
の罪から、彼の永遠性から、現在と見よ、それはただ1枚の布
に集約される。

あなたのバケツの中、大海の一滴、結ばれた糸

そして、乱暴に破かれた書き込み、紙に書かれたテキスト

のみの抜粋

一瞬の輝かしい夜

燦々と輝く暖かい太陽、光り輝く屋根瓦

そして、鏡で別のものを見て、わずかな錯覚から、地面に落ちた
雫を見る。

そして、すべて "ノー" だった。

布がはためく優しさの朗読

飛び込みから理性へ

そして明るさと強さがすべてだ

その様子から、ひとたび冒涇され、鎖につながれてしまえば、い
かなる意志も合図も自由になることは明らかだ…。

閉じたカーテンに開いた窓 舞台そのものから劇場を眺

める



ボード、ライフガード、それは幸運、救われた、そして砂浜で、私は陸地を見て生きた、ダイビングの瞬間から、すべてのブライドを。

私たちは白熱し、ある世界の深みへと降りていった。

突然の一撃、幻影、私たちは皆、次から次へと起こる予感の現実を生きてきた。

解放され目覚めた者の痙攣を感じる存在と、決

して完璧ではないソネットからの手紙のために

。

バラバラの韻から、ひとつのフレーズが流れてきた。

去ることなく、そしてどこにいたのか。

不思議な

土の中の一粒

すべての想像力の幻想の中にある真実 その時、彗星は爆発

し、この惑星では

生きていることがバカバカしいとは限らない。

陰謀はセットされ、計画は頓挫しなかった

その時、私は吸い込まれるような声を聞いた。歌詞の遠吠えは
歴史の狼であり、完璧から破滅まで、それは含まれていた。

海辺の星のロケット。

そして、私は階段を下り、虚空へと向かう

金属製の手すりは自動で、片足だけ川に足を突っ込み、裸足で
寒かった。



すべてが消え去り、消えていく。普遍的なものはすべてありの
ままであり、キスする渴いた快感によって開かれた口の中に
ある舌だけが、そうなのだ。

見よ、このキスと欲望を、このまなざしのゆらめきを。

まるで現実の何かを見ているような、非現実的ではなく想像上
の何かを見ているような、小さな鼻から温かい感覚を感じなが
ら、あなたは空を飛び、心で冥王星を征服する。

池の中の石 別々の人生

いつも撮られるわけではないポートレート

狂気は正気を取り戻そうとしていた

私は、すべてが創造された地点に行き、抱かれるのを待つ
ていた緩いキスから、力を込めて、こう言った。

ただ存在するだけで、信念を持って、常に自分の心と結びつい
ている。

流れから想像されるのは、箱が4つの壁で覆われて

いることだ。

そして、勝敗を恐れない力によって照らされるのを待っている、
理性のないフィラメントの表情。

曖昧で漠然としている

筆でアルファベット全体を、それぞれの色、音節、強弱で塗り
つぶすマー。

そして自分自身を、何よりも城を築くことだ。

滝と川の下の岩の上

何事も大らかに受け止めようとする流れの中で、彼は何よりも、
同じような単純な旅の物語とはまったく異なる、健康的な名人芸のようなものを思い浮かべていた。

見えないけれど、広がっている。



それでも階段は、一步一步前進し、浮き上がる

ように後方へと進んでいった。

そして、ただ一人、しっかりとした確信に満ちた雰囲気、一段一段登ろうとしている。

滑走路で壊れたピアノには鍵盤がひとつしかなく、それは

CでもDでもなかった。

海の照り返しの中で、暖かい風景に香りを.....愛している君が
見える

ボートの残骸の中で

リビングルームに置かれたピアノを拭き取るきれいな布の上
。

誰もなりたがらなかった

僕はただそこに入りたかっただけなんだ。

そしてドアには出口があった。

あなたが想像しうる、そして決して理解できないものの中で、それは願望だった。

胸が締め付けられる

そして、彼はあなたのすべてを汲み取るだろう

そして、乱暴なほうはあまり分別がなく、行為に及んでいる

原爆投下はすでに出来事だった 平和のための戦争

すべてがさまざまな意味を持って結びついている

去り行く旅立ちと、戻ってきたものの拡大、そして鳥のさえずり。

今日になってようやく、彼は自分の音楽と歌詞を覚えた

んだ。

その仕事は、信じることを恐れず最後には帰らないことをもたらすことだった。



旅はすでに始まっていた

屋根の上の落差の深さ、開け放たれた窓、寒さ、ある事実の行為の暗闇の中で、起こったことはないが、報道され、考えるために創作されたはずのこと。

あの水蒸気はただ蒸気を発散しているだけだった

あの水はただあなたのキスへの渇きだった ただあ

なたとピアノに触れたいという欲求の中で

それは、あなたを虜にする音を聞かせる計画の一部だった

。

鋭い感覚、鈍い刃

すでに感じていることに影響を与えない、力強い文章だった

星なき夜の綱 未来への旅

今は過去とは違うし、クーデターもそうだった。

ただの話

すべてを冒流し、最後には冥王星からもたらされたもの
だけを書き残した。

一途な愛

飛び越えることが不可能な2つの壁の間、フェンスのある場所
広々とした円の中にある長方形の正方形から遠く離れたも
のは何もなかった。

埃を振り払い、ピアノがCと寝室で演奏されるのを見るとき
の、あの結び目、あの窮屈さ。

撮影されたイメージの暗さ、ロールのレンズを通して、断片的
な色調の小さなイメージ

作品に映るあなたが見える
その
中に

私の姿に映るあなただけが鏡のフレームなのだから。



普通

どうすればこの苦しみから抜け出

せるのだろうか。この苦しみは、

唯一無二の痛みに浸り、苦しみを

悪化させる。

ウィズアウト・キリング』をひと目見ただ

けで、問題提起がなされ、全体が落下した。

涙とは、傷つき冒流されたハートの発見であ

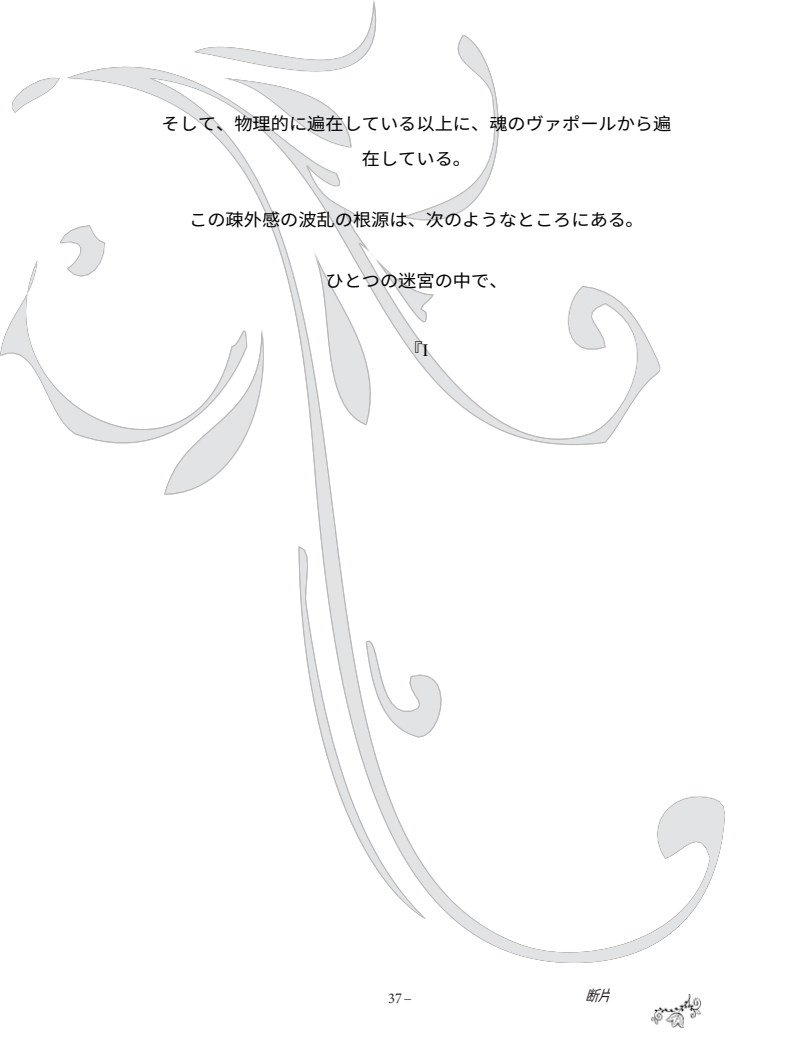
る。

そして、私を狂わせ、手首を鎖で縛り、あらゆる衝動を駆

り立てる鎖がやってくる。

病み、暗い魂に苛まれる。

私たちを揺さぶるこの塵は、私たちの感覚を突き破る。



そして、物理的に遍在している以上に、魂のヴァポールから遍在している。

この疎外感の波乱の根源は、次のようなところにある。

ひとつの迷宮の中で、

『I



あなた

海流に引きずられる

今日も一日、無気力な日々が続く。

ほとんど切迫したこの瞬間、誰もが待っている...。

田舎的なひとときから運ばれてきた、生きることの寓話...。

松明が燃え尽き、ここに光り、炎が灯る.....。

飼い慣らされるのを待つ放し飼いの馬のように...。

この無限の時間の中で、私のようにあなたを感じられるのだから...。

それは周囲の過去と交差し、生きるべき人生を示すものである
。

私たちの再会は魔法に満ちている。

あなたの母のような顔、愛情、優しさだけが、私の苦しさをすべて解きほぐしてくれる.....。

私はただ生きていて、死ぬまでいつもあなたに会えればいい...。

蒸し暑い唇の動き、官能性、透明な幸福感.....。

心のこもった抱擁が体験されるのを待っているように、強い結びつきが....。

何よりも、あなたの幸せを願うと同時に、子供のように幸せになってほしい.....。

蒔かれ、育まれ、強化される根.....友情は最も崇高な愛である

私の心臓をあなたのリズムに合わせて鼓動させて...」。



お父さん

Num ai 私は父

親だった

学びが魔法の瞬間 常に希望に

満ちている

子供を持つという最大

の愛に

母の愛 子供の愛

彼は巨人だ 常に気を

配り、知的だ

父と息子

喜びを爆発させる息子

その感情、情緒、愛情気遣いは、私たちに永遠の喜びを暗示する力であり、愛情、分かち合い、教訓、適切な教えに対する私たち二人の願望は幸福で溢れ、私たちのどちらかが、初心者の父親のもとで永遠に若い弟子となることを熱望する。

どれだけあなたを愛しているか、どれだけあなたを感じているか、どれだけ不安な瞬間の質問でも、そしてほんの少しだけ、あなたが私を魅了するから、それを伝えなかった。あなたの輝きはいつも私にとって、私たち二人が収まる枠の中の恍惚の写真であり続けるだろう。

あなたはただ生まれたときから、自分のことだけを考えるようになり、いかに私を豊かにしてくれるか、あなたは狂気であり、真の優しさを持っている。



涙

いつか、もし涙があったら、君の顔につけてあげたい、そうすれば君はもう泣かないだろう。

夢

海の真ん中で目が覚めた。

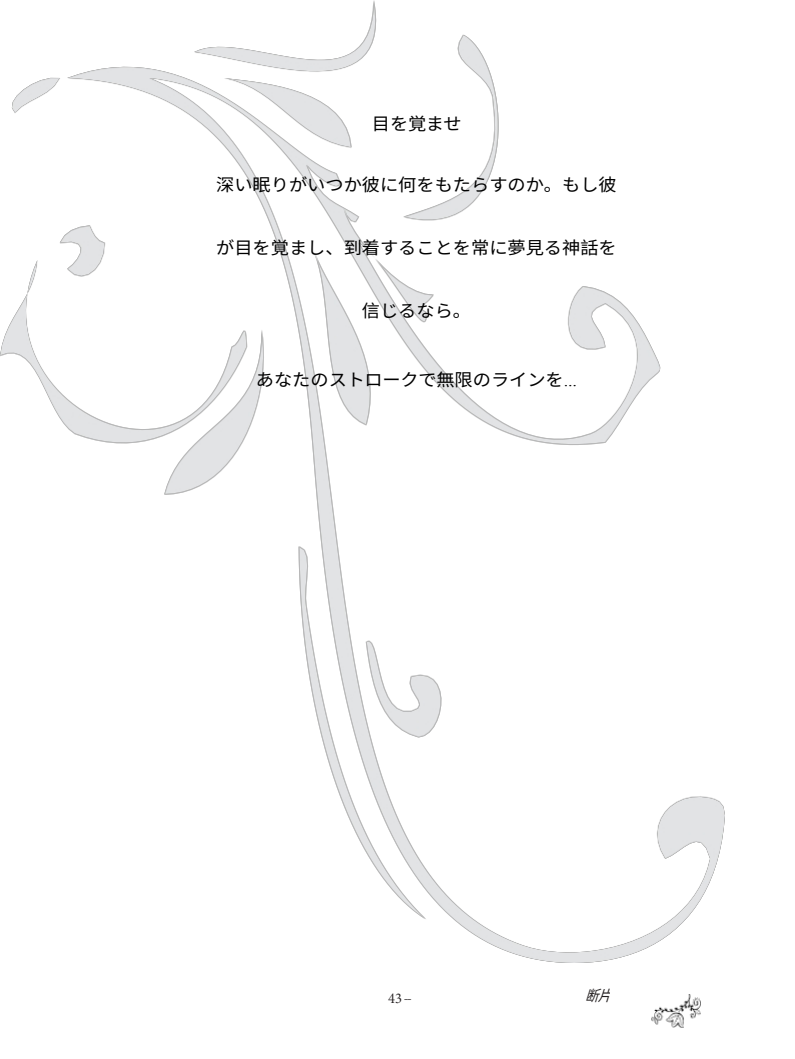
何年も続く眠りから、夢遊病者にな

る

夢見る者よ、夜の魂よ、夕暮れ時、影の姿は暗闇

に侵入し、目覚めさせる。

純粋で生々しい幻想の、最も永遠の



目を覚ませ

深い眠りがいつか彼に何をもたらすのか。もし彼

が目を覚まし、到着することを常に夢見る神話を

信じるなら。

あなたのストロークで無限のラインを...



パー

私はキスが欲しかった

私たちを麻痺させる安らか

な眠り

そして、私たちはもっと知りたい

と思う。

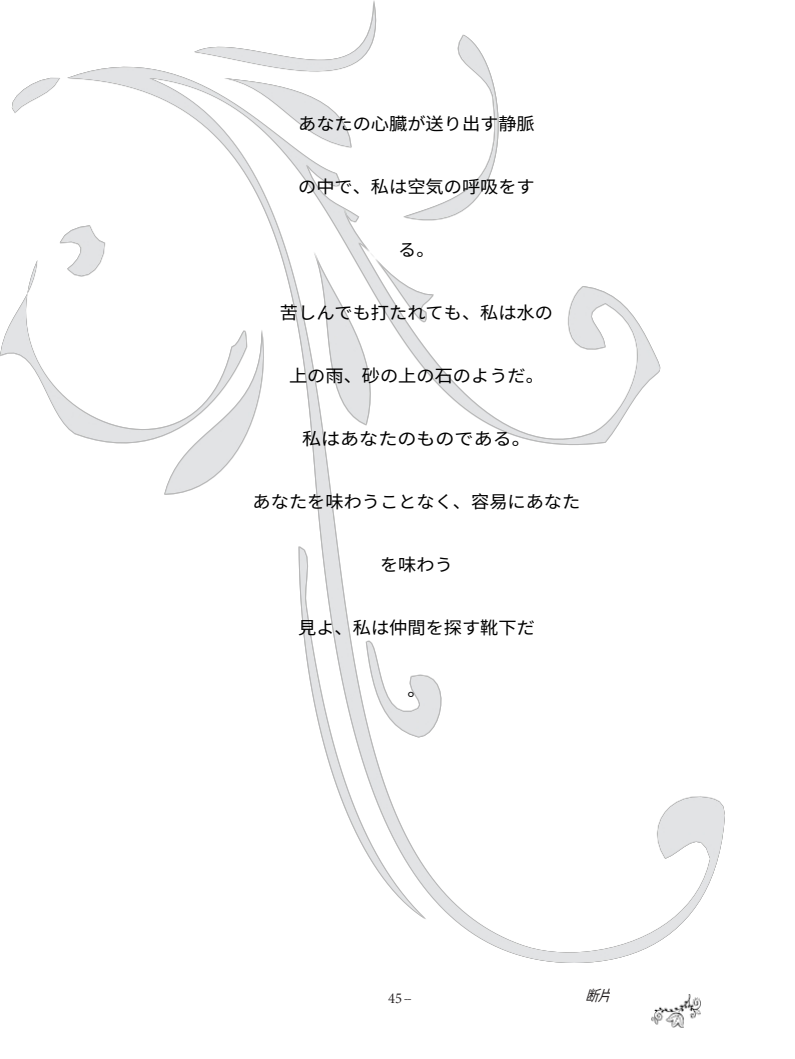
その中で、あなたはやわらかく、

私たちをリフレッシュさせる言

葉を語りかける。

絡み合っているあなたたちを想像する心。

そして、二度とほどけない。



あなたの心臓が送り出す静脈

の中で、私は空気の呼吸をす

る。

苦しんでも打たれても、私は水の

上の雨、砂の上の石のようだ。

私はあなたのものである。

あなたを味わうことなく、容易にあなた

を味わう

見よ、私は仲間を探す靴下だ

。



結び目がない、結ばれるのを待ってい

るブーツ

そして、決して解けない絆。なぜなら、

あなたは私が愛する一足の靴だから。

人生

永遠の守護の中で、彼女は

そこに立っている

そして、それを直視することも、回避する
ことも、操作することもできない。

反体制派の恐怖が沸騰し、一点で

頂点に達する。創造、想像、ある

いはただ緑の花を描くことの、精

神の麻痺。

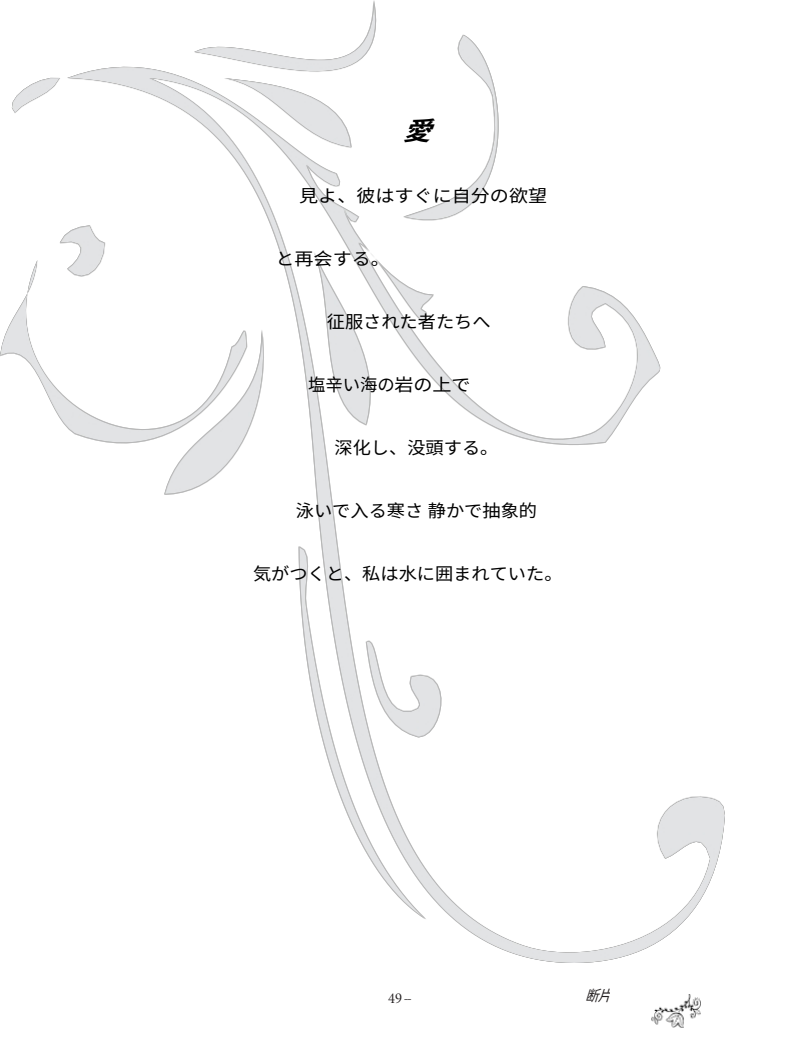
音色と掴みどころのない人生。



ブロッサム、ここにあるよ

あなたがいつも刻みたいと思っていた目印、

激しく生きる



愛

見よ、彼はすぐに自分の欲望
と再会する。

征服された者たちへ
塩辛い海の岩の上で
深化し、没頭する。

泳いで入る寒さ 静かで抽象的
気がつくと、私は水に囲まれていた。

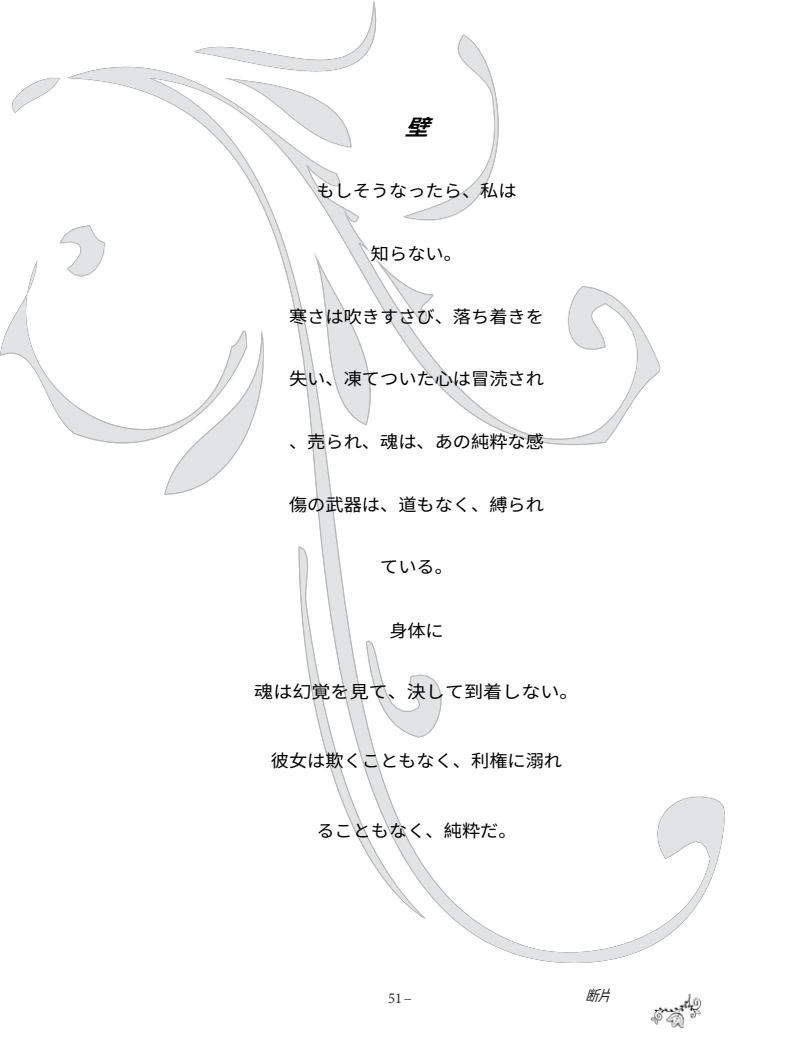


難しいことは何もない。ただ、同じ一歩を

踏み出さず、前に進むだけだ。

風、海、そして征服された大地。

ただ愛する



壁

もしそうになったら、私は

知らない。

寒さは吹きすさび、落ち着きを

失い、凍てついた心は冒涇され

、売られ、魂は、あの純粋な感

傷の武器は、道もなく、縛られ

ている。

身体に

魂は幻覚を見て、決して到着しない。

彼女は欺くこともなく、利権に溺れ

ることもなく、純粹だ。



そのため、円形で目立つように展示さ

れている。閉じたまま、半開きで

幻影を征服し、巨大なものから雷が起こるよ

うに。

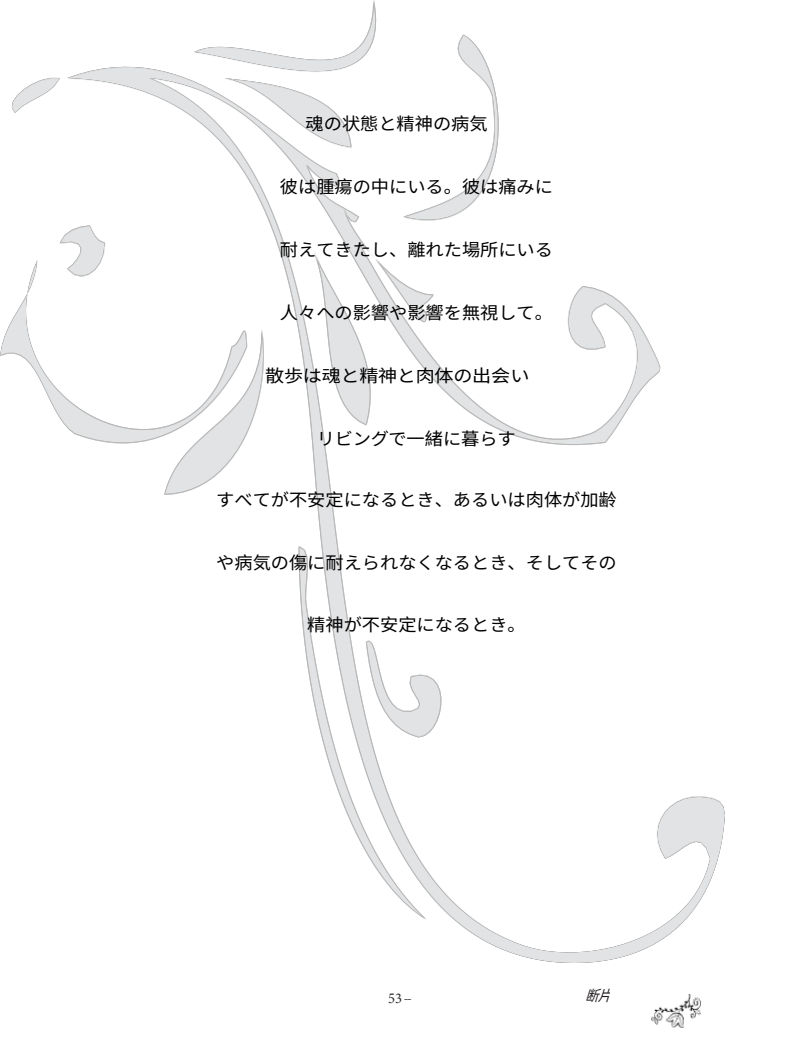
しかし、精神の病、身体のニーズ、

そして私たちが意識的に感じているこ

と。

それは自らの存在の深淵に飛び込み、浮遊し

、残り、不穏な付属物のようである。



魂の状態と精神の病気

彼は腫瘍の中にいる。彼は痛みに

耐えてきたし、離れた場所にいる

人々への影響や影響を無視して。

散歩は魂と精神と肉体の出会い

リビングで一緒に暮らす

すべてが不安定になるとき、あるいは肉体が加齢

や病気の傷に耐えられなくなるとき、そしてその

精神が不安定になるとき。



自己と私利私欲から、私たちの意志

に従う。

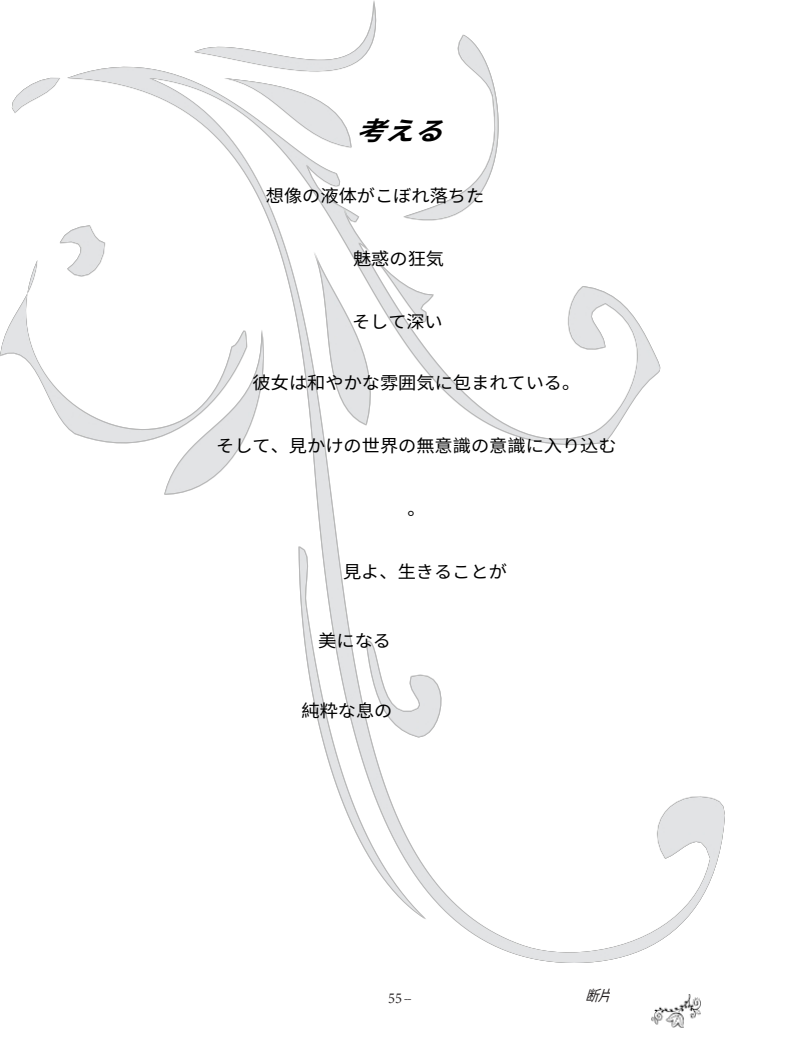
そしてそれは、思考の最大限の表現において、墮落し

た精神に作用する。

そして、ピュアに、

激しく侵入した

壁のような強さ 目立たない



考える

想像の液体がこぼれ落ちた

魅惑の狂気

そして深い

彼女は和やかな雰囲気に含まれている。

そして、見かけの世界の無意識の意識に入り込む

。

見よ、生きることが

美になる

純粋な息の



そして無限が限界

になる

目に見え、言葉の間に

広がる 感情

そして一つの行動

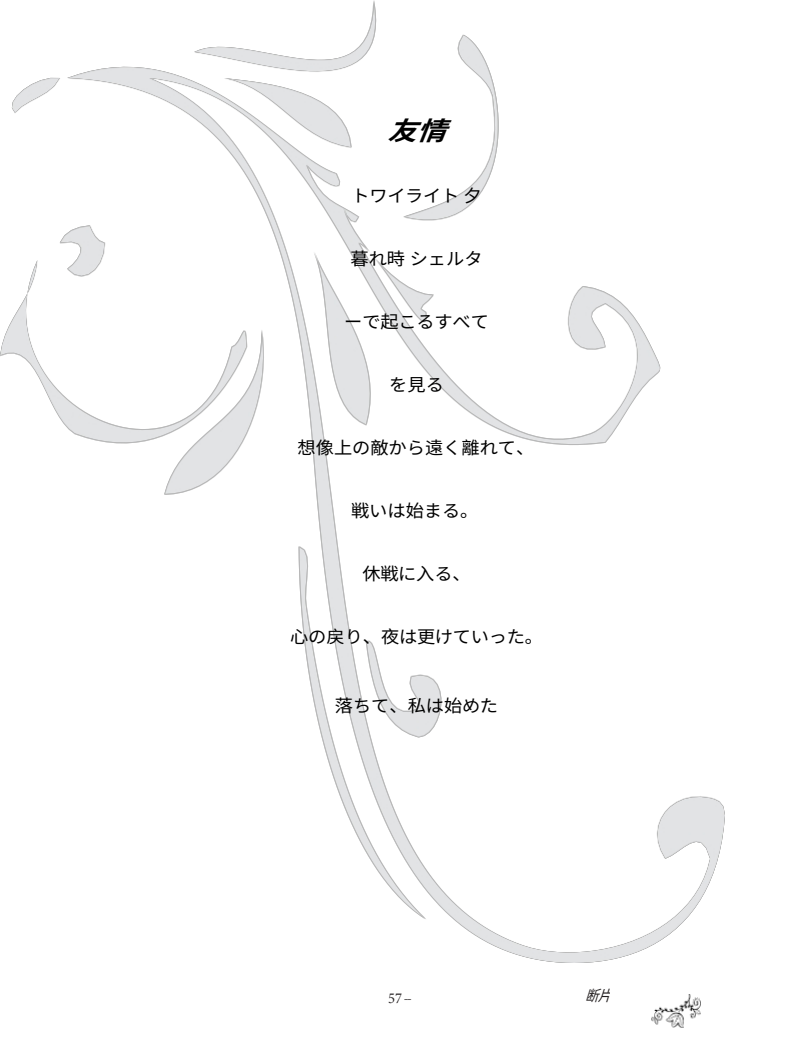
思考を修正すること

なく

そして常に想像する。

変革のために考え、行動す

る



友情

トワイライトタ

暮れ時 シェルタ

ーで起こるすべて

を見る

想像上の敵から遠く離れて、

戦いは始まる。

休戦に入る、

心の戻り、夜は更けていった。

落ちて、私は始めた



その感触を味わうために あなた
の柔らかい肌でそれを感じるために
意志とエネルギー 時代を超えた友情
どんな情熱や愛よりも強い、純粹
な愛情表現。

そして、どんな巣であろうと、親指が触

れるだけで

そして、それがどんな

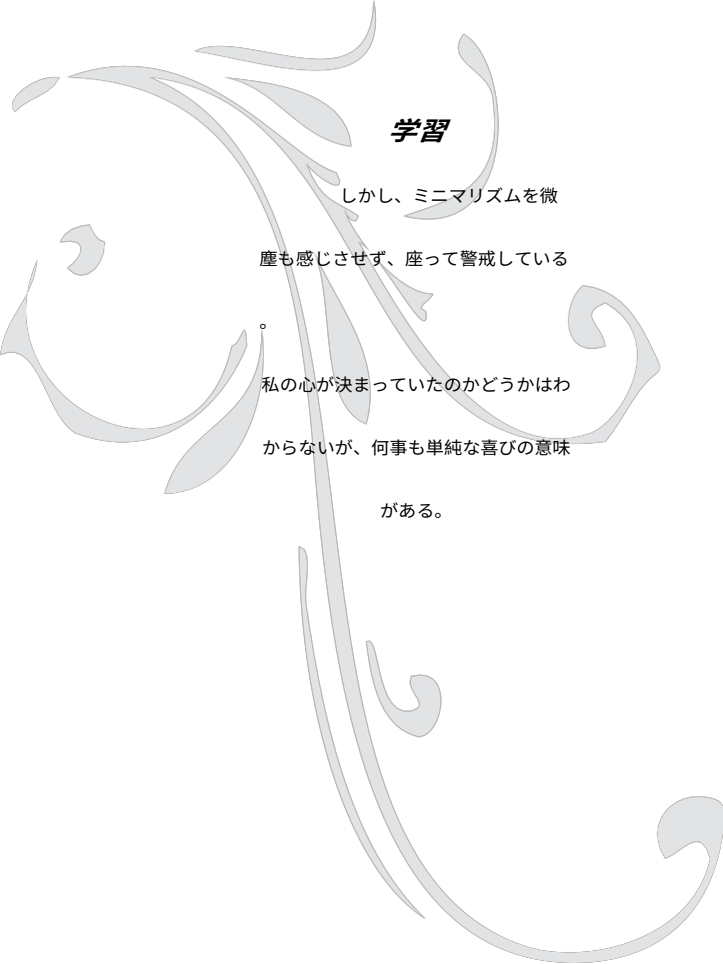
感じだったか想像して

みてほしい

そして、すべてのエネルギ

ーの流れが通り過ぎていっ

た



学習

しかし、ミニマリズムを微

塵も感じさせず、座って警戒している

。

私の心が決まっていたのかどうかはわ

からないが、何事も単純な喜びの意味

がある。



要求に応じてあなたに手紙を書くこ

と 必要ない。

あなたが感じたすべてが残り

、消えていく

それでも彼は見た

見るだけ、読むだけ、書くだけ

解釈すること、同化すること 運

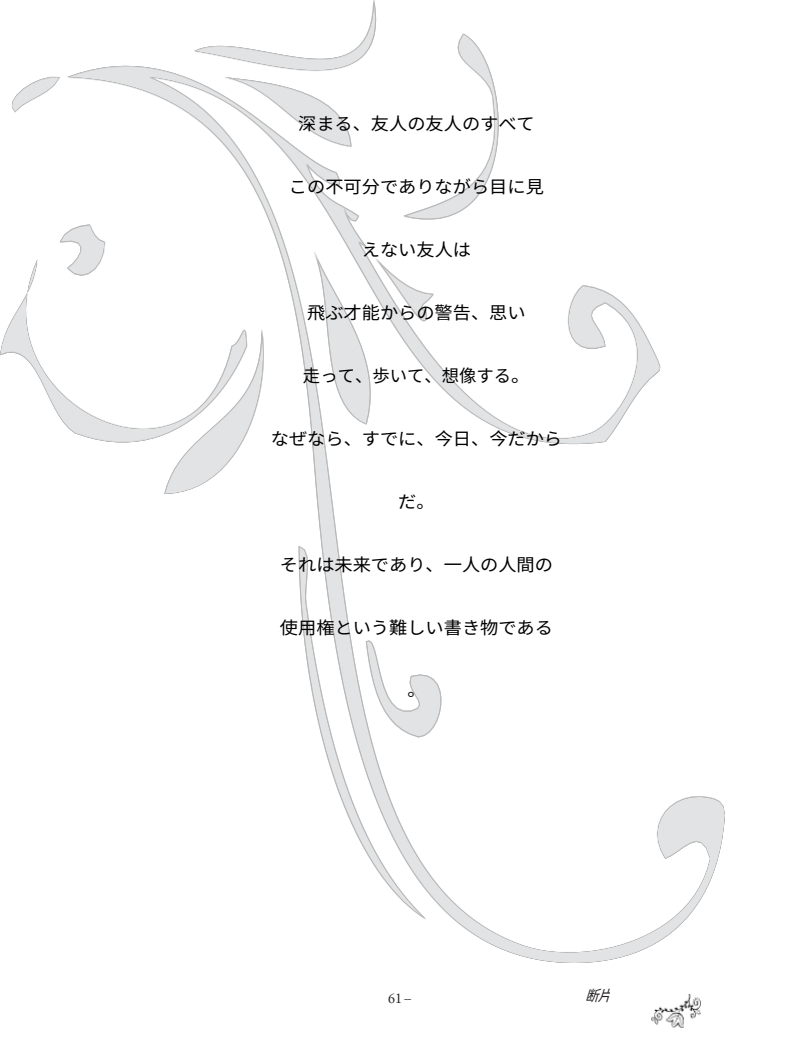
ぶこと、教えること 学ぶこと、

これが励ましの成長だ

風の力で、

そして、七つの海を飛び、姿を消した。

そして、潜って、行って



深まる、友人の友人のすべて

この不可分でありながら目に見

えない友人は

飛ぶ才能からの警告、思い

走って、歩いて、想像する。

なぜなら、すでに、今日、今だから

だ。

それは未来であり、一人の人間の

使用権という難しい書き物である

。



ただ呼吸すること、そして何よりも創造し

、想像し、そして戻ること。

その場所に再び戻り、再

創造する。

あそこから出たことはない

けど、あそこだ。

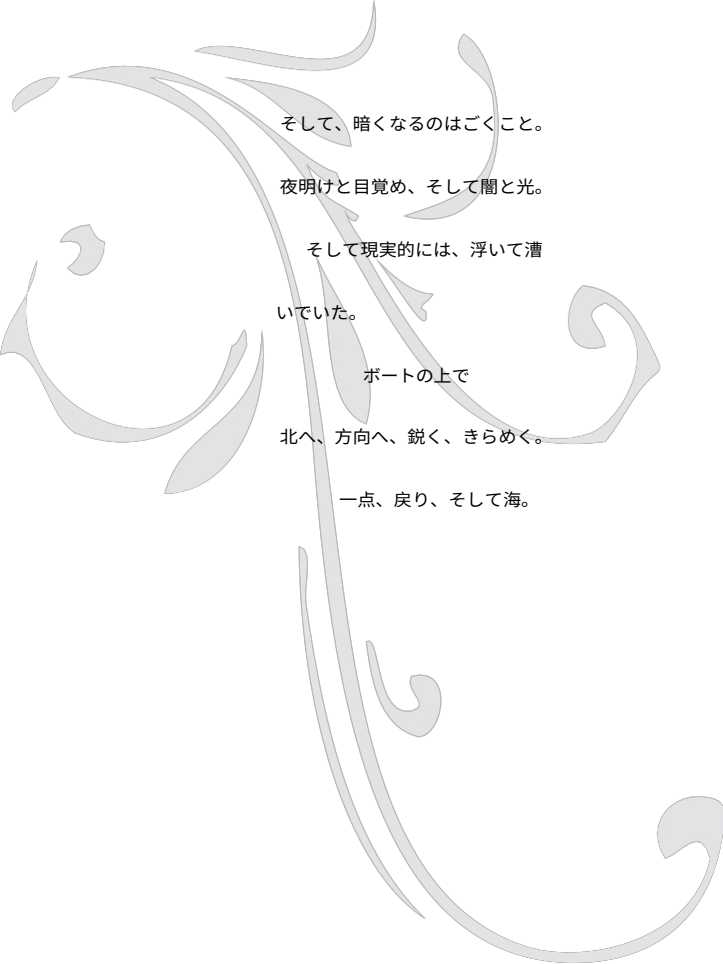
時計を見る できれば時間通り

に

実際の出来事や目撃された出来事

を目撃し、独自の快感を覚える

それは優しさから来るものだ



そして、暗くなるのはごくこと。

夜明けと目覚め、そして闇と光。

そして現実的には、浮いて漕
いでいた。

ボートの上で

北へ、方向へ、鋭く、きらめく。

一点、戻り、そして海。



それは巨大で凄まじい海の怒り

だった。

歓迎されることなく、密かな旅

に出る。

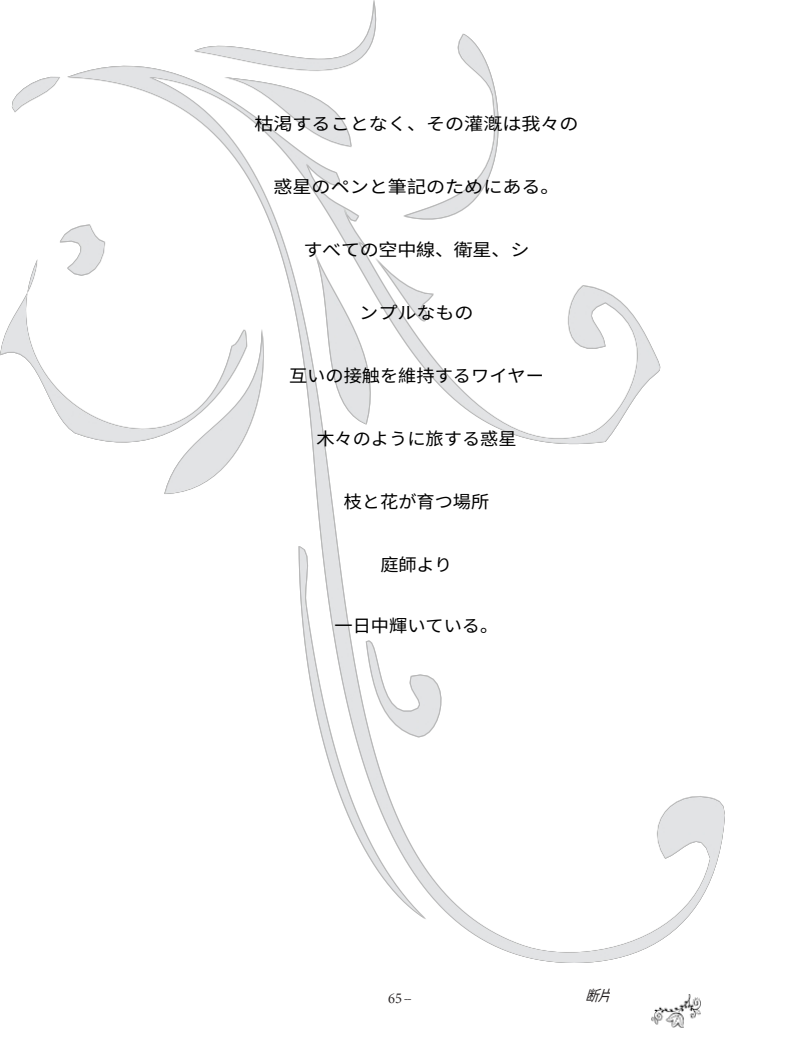
それは正方形の球体であり、逆

三角形であった。

忘れ去られた者のように、生

きている。

サイトより葉の写真



枯渇することなく、その灌漑は我々の

惑星のペンと筆記のためにある。

すべての空中線、衛星、シ

ンプルなもの

互いの接触を維持するワイヤー

木々のように旅する惑星

枝と花が育つ場所

庭師より

一日中輝いている。



そして

もう一回ジャンプして、もう一回跳んで、

生まれてくる子供を見るために。

彼が成長し、学び、理解するのを見ること 彼が観察し

、変化させるものすべて。

子供たちとの関係において、それはソ

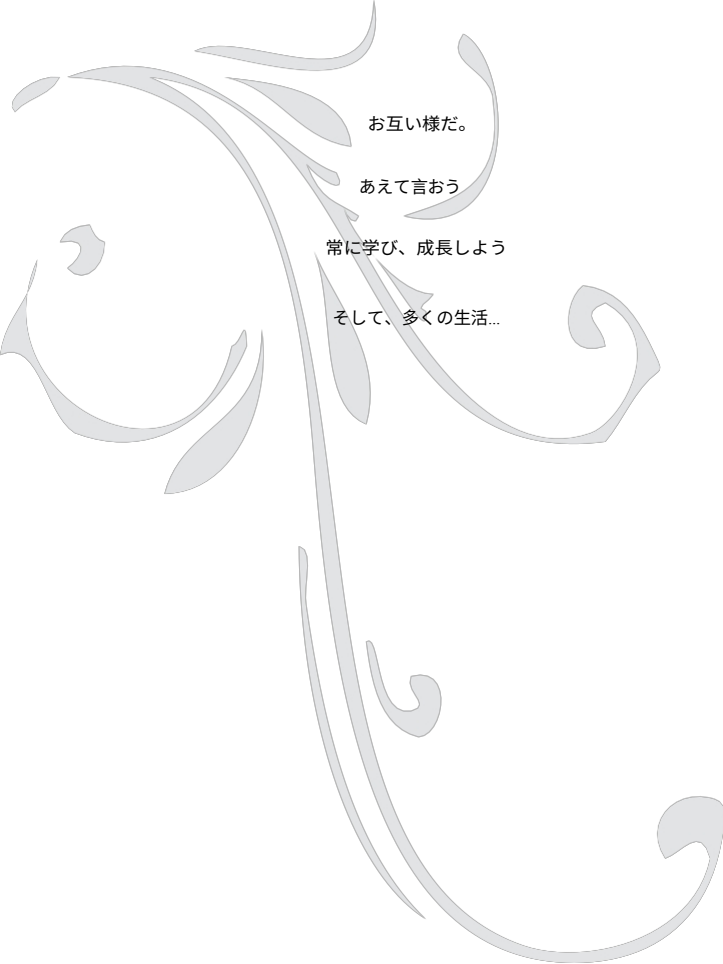
フトな肌である。

両親とその指導者たちへ

学ぶことと観察すること、学ぶことと知ることの二

重の癒着から 双子のように

学習ペアを持つ人



お互い様だ。

あえて言おう

常に学び、成長しよう

そして、多くの生活...



リビング

見えない痛みを感じる

常に忠実な態度であり続けたい

が、悲しいピエロのようだ。

私は偽物だ

笑顔、内面からの喜び、それは外面には

従わない。

だから、私はノーマルがいる場所を離

れて旅に出る。

そして、視界から外れる地点に留まる。

私は大きな一歩を踏み出す、忌まわしく
、不自然な現象を感じる。

獰猛さを感じ取り、スピードで絞
め技を繰り出す。

そして、生来の力のよ
うに人を殺す

彼の運命

この瞬間に失敗すること そして、こ
の先、上へ上へと旅を続けること

その跡形もなく、反乱を起こし、憎

悪に満ちたイメージが残っている

。

そして本当に罪深い



ここに誓いがある

高さのある空には、涼しげで陽

気で穏やかなマリーゴールドが

咲き誇る。

そしてそれは成長し、この暴

力的な衝動は単なる悪い瞬間

に過ぎない。

完成され、完成されたものである

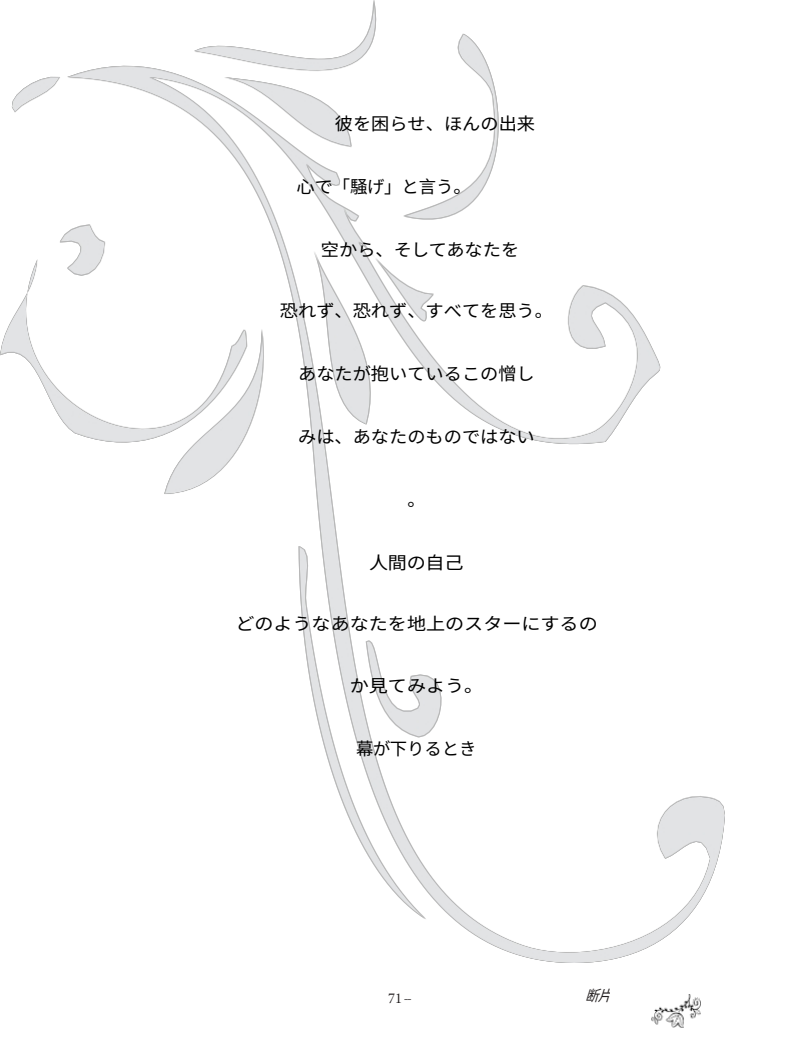
ことのすべての獰猛さが、突然

手放される。

まったくないあ

るいはほとんどな

い



彼を困らせ、ほんの出来

心で「騒げ」と言う。

空から、そしてあなたを

恐れず、恐れず、すべてを思う。

あなたが抱いているこの憎し

みは、あなたのものではない

。

人間の自己

どのようなあなたを地上のスターにするの

か見てみよう。

幕が下りるとき



ピアノを弾いてほしい。

到着したら出発す
る。

あなたを満たすた

めに そして飛ぶた

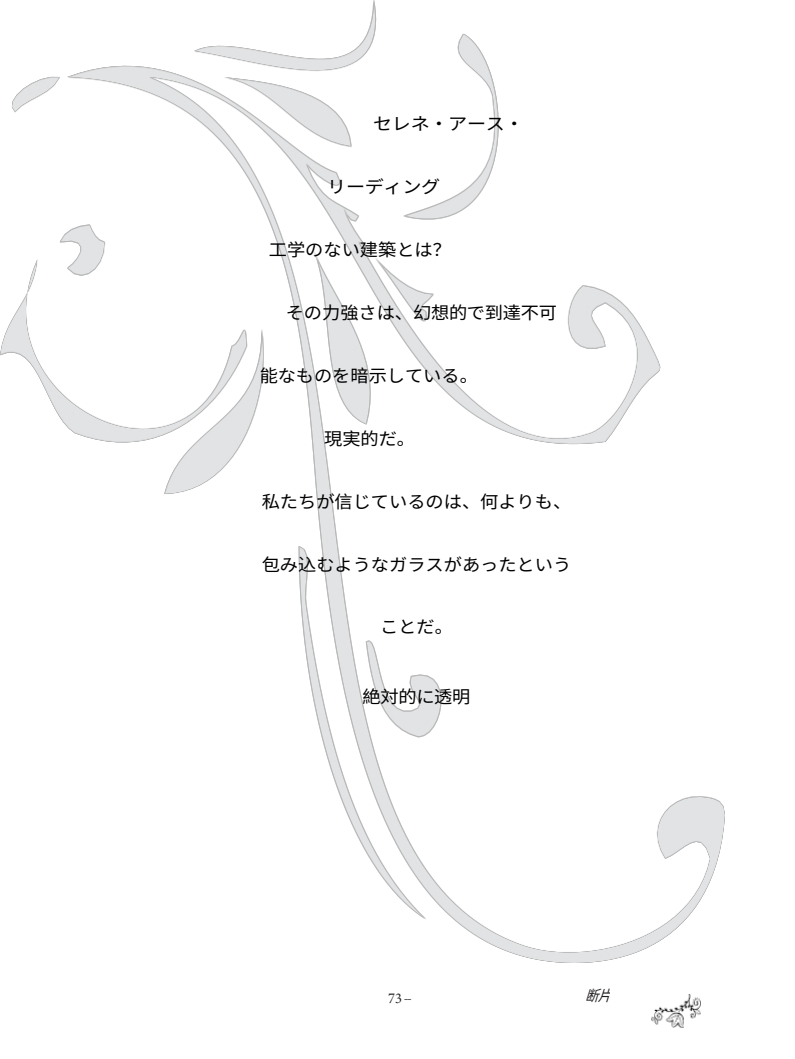
めに

フラットでフライング

荒れ模様の雲

私たちを作る多要素 柔らかく湿った顔の

引き裂くような雨の中で



セレネ・アース・

リーディング

工学のない建築とは？

その力強さは、幻想的で到達不可
能なものを暗示している。

現実的だ。

私たちが信じているのは、何よりも、

包み込むようなガラスがあったという

ことだ。

絶対に透明



価値観は花のようなものだ

そして種となるものは心の中で育

つ。

同じものとは違うということ

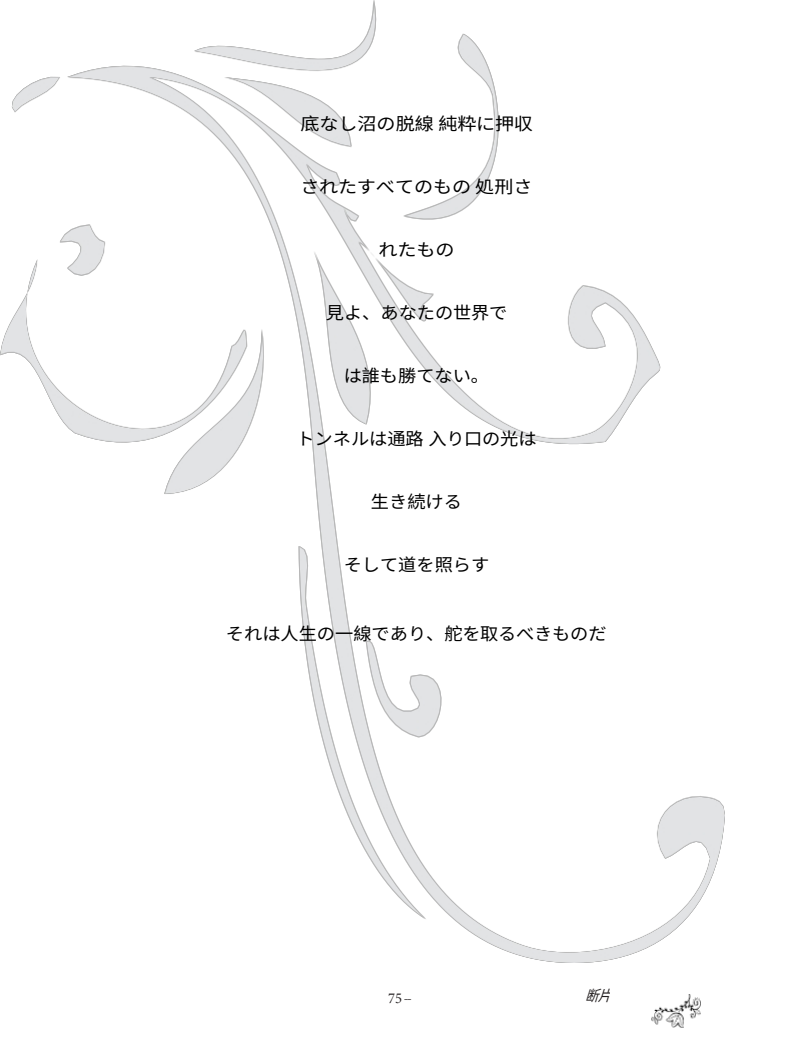
私たちが皆持っているもの 本

能と獰猛さ

人間の魂 適切な魔法の薬を超えて

光が差し込むのが見える険しいトンネル

そしてその結末は



底なし沼の脱線 純粋に押収

されたすべてのもの 処刑さ

れたもの

見よ、あなたの世界で

は誰も勝てない。

トンネルは通路 入り口の光は

生き続ける

そして道を照らす

それは人生の一線であり、舵を取るべきものだ



愛深い

愛に苦しんだ。

忘れられた

心の奥底で半身を失い 悔い改め

て生きている

マスク

終わりを生きる 終わり方とすべて 終

わり、見よ、確かなもの、これほど

確かなものはない。

不確かなもの 不確かなもの

もう一行

無限と限界の連続は、無限を予見することを

許さない。

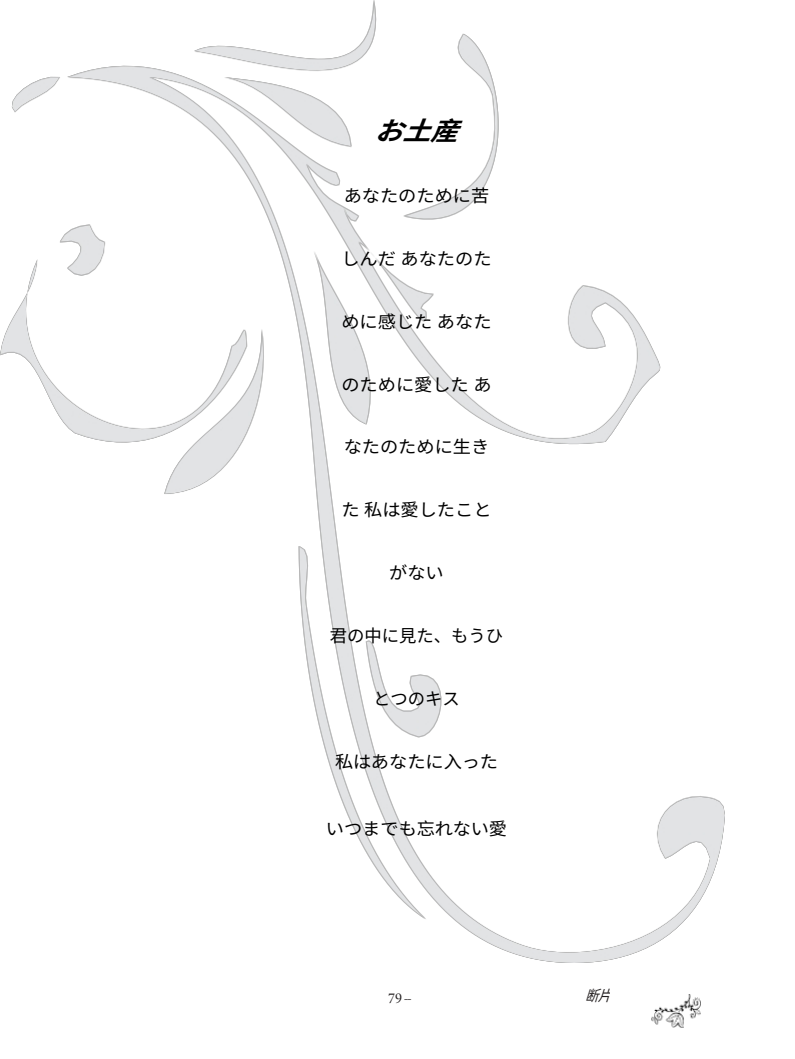
誕生と無限 ただ死を前にして



呼吸するように、それはゆっく

りとやってくる。

闇の仮面



お土産

あなたのために苦

しんだ あなたのた

めに感じた あなた

のために愛した あ

なたのために生き

た 私は愛したこと

がない

君の中に見た、もうひ

とつのキス

私はあなたに入った

いつまでも忘れない愛



と感じた。

これほどの苦しみはない。

あなたのために書

いた

私は苦しみ、そして決して死なな

かった。

私が感じたのは



恋人

ある瞬間、それは遠

く感じられた。

すでに恋人



リフレクションズ

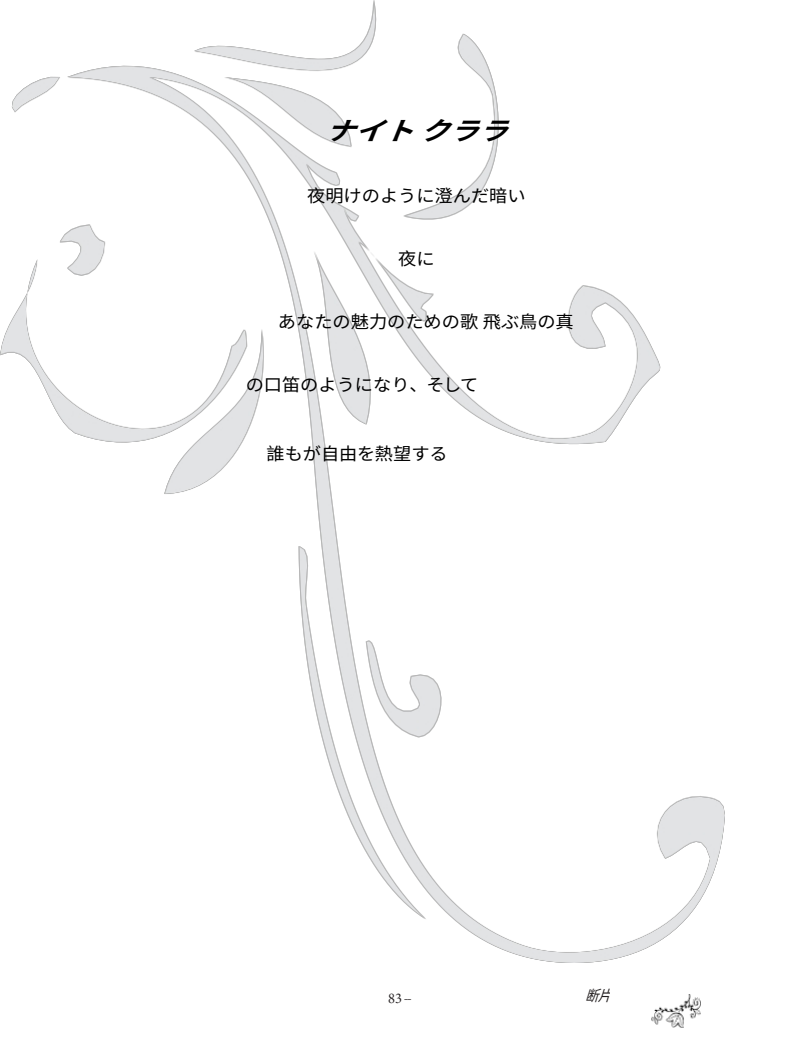
何かが生まれるのを待っている。

リフレクション

自分の姿だけでなく、鏡のないこ

のシンプルな反射もまた、伝わっ

ている。



ナイト クララ

夜明けのように澄んだ暗い

夜に

あなたの魅力のための歌 飛ぶ鳥の真

の口笛のようになり、そして

誰もが自由を熱望する



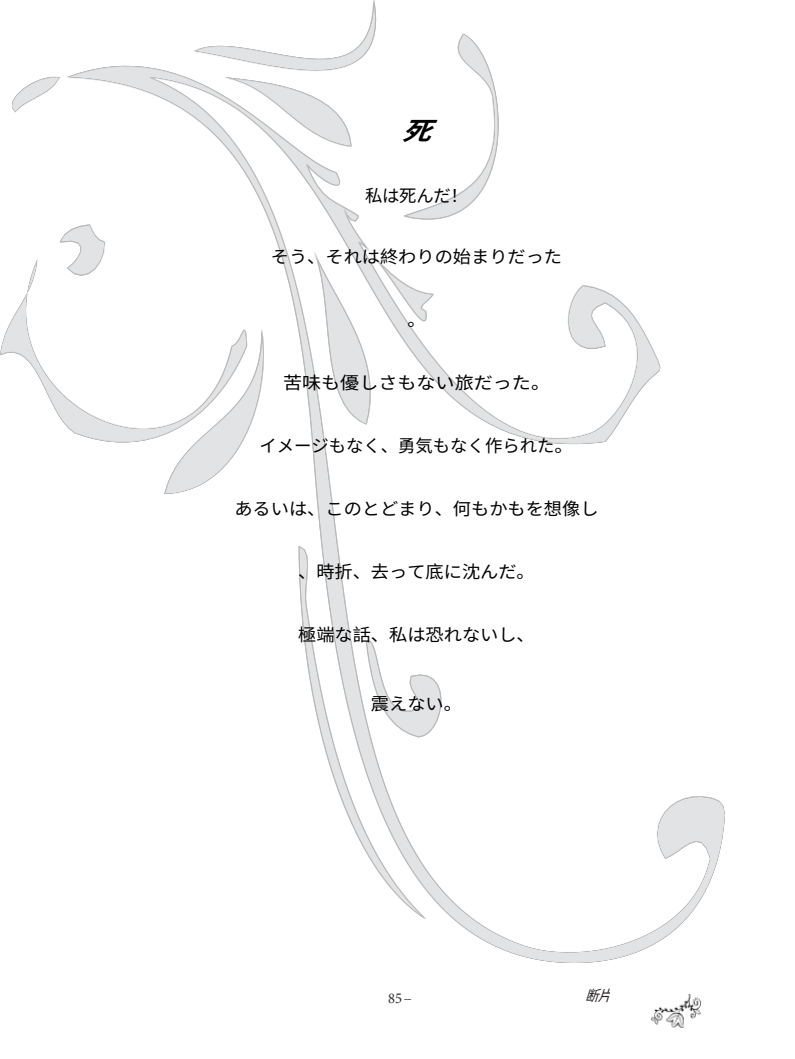
執筆

I...

そして、私が所有できる

最大の財産は、一枚の紙

と魅力的なペンである。



死

私は死んだ！

そう、それは終わりの始まりだった

。

苦味も優しさもない旅だった。

イメージもなく、勇気もなく作られた。

あるいは、このとどまり、何もかもを想像し

、時折、去って底に沈んだ。

極端な話、私は恐れないし、

震えない。



旅には帰りがある。

美の深みにおいて、私が持っているも

のすべてがすべてなのだ。

そして、私は何もかもが欲しい、私が去るとき、私は何も持

っていない、そう思った。



深淵

私は奈落の底にいる

終わりだ



待機中

そして彼はそうやって歩き、欲しがり、欲しがり、飛び跳

ね、飛び跳ねた。

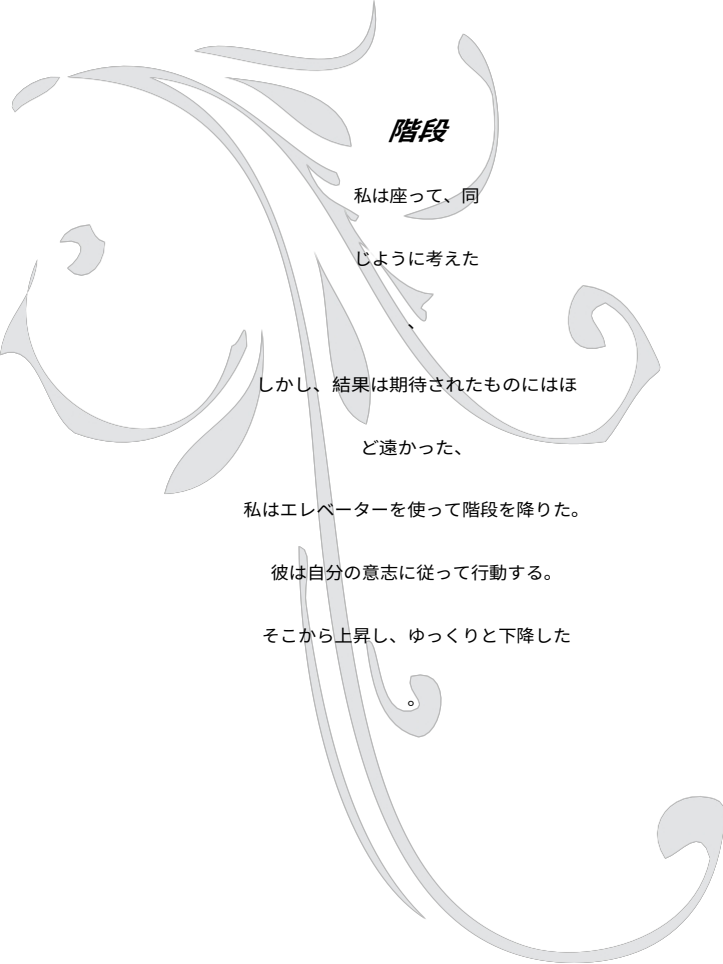
そして喫煙

私たちはいつも不安の中で生きているけれど、不安

は年齢とともに変化する。

私たちの中にある何かが、すべてが、無意識のうちに自分の意

志の邪魔をする。



階段

私は座って、同

じように考えた

、

しかし、結果は期待されたものにはほ

ど遠かった、

私はエレベーターを使って階段を降りた。

彼は自分の意志に従って行動する。

そこから上昇し、ゆっくりと下降した

。



本社

涙と直感から

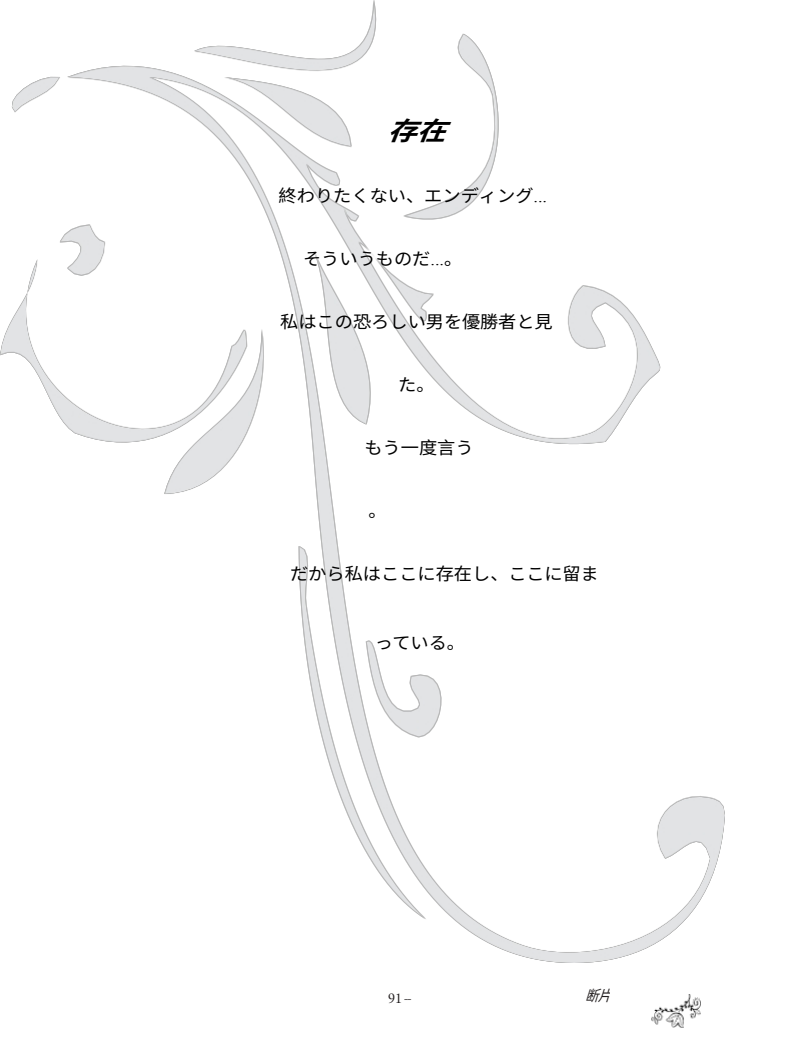
あるいは破壊、その思考は

美しい冷蔵庫の水筒から

一口。

そして、私はそれを喉の渇きの場所に

持っていく。



存在

終わりたくない、エンディング...

そういうものだ...。

私はこの恐ろしい男を優勝者と見

た。

もう一度言う

。

だから私はここに存在し、ここに留ま

っている。



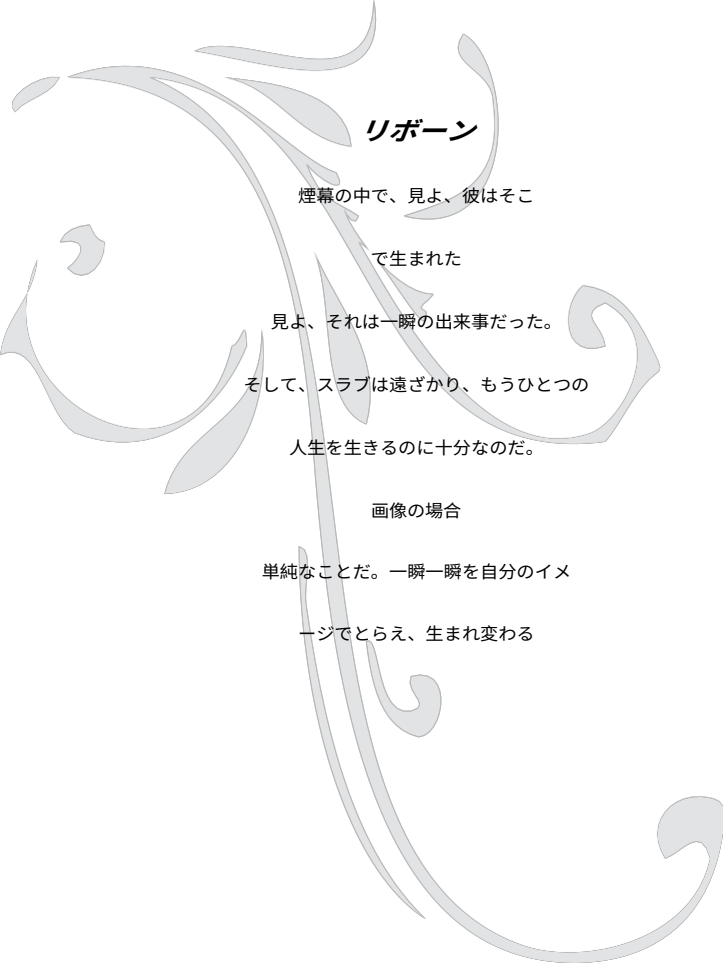


夜明けに感じた優しい悲しみ

生きてきた、蘇った、生まれ変わっ

た。

ザ・サン



リボーン

煙幕の中で、見よ、彼はそこ

で生まれた

見よ、それは一瞬の出来事だった。

そして、スラブは遠ざかり、もうひとつの

人生を生きるのに十分なのだ。

画像の場合

単純なことだ。一瞬一瞬を自分のイメ

ージでとらえ、生まれ変わる



見る

狂気の匂い 狂気の匂い 思考の拷

問 すべてが断絶している

身寄りがなく、ハートの孤児であ

る。

目を傷つけ、殺す者

欲望と憧れ

終了

あと少し、あと少し

私たちは皆、高潔なイメージとして存在する

だけではない。

しかし、外見や状態のせいで、心は死なない。

すべての物理的存在の瞬間

そして突然、しまう。



生きること死ぬこと

生きるか死ぬか？ ああ、すみませ

ん、それはですか？

もちろん、自殺したことのない人などいな

いだろう。私たちは皆、生きることをやめ

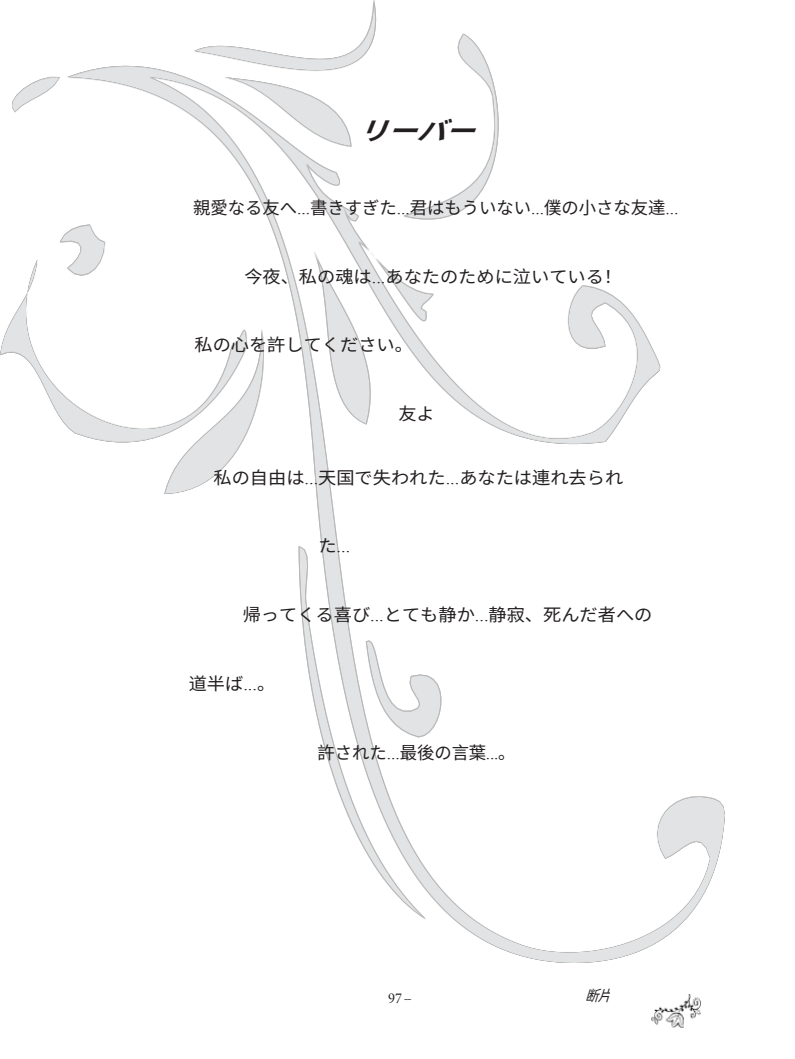
ている。

ある瞬間。私たちは皆、例外なく、はげしい喜び

のように考えている。

これが私たちの生き方

滑稽さの矛盾



リーバー

親愛なる友へ...書きすぎた...君はもういない...僕の小さな友達...

今夜、私の魂は...あなたのために泣いている!

私の心を許してください。

友よ

私の自由は...天国で失われた...あなたは連れ去られ

た...

帰ってくる喜び...とても静か...静寂、死んだ者への

道半ば...。

許された...最後の言葉...。



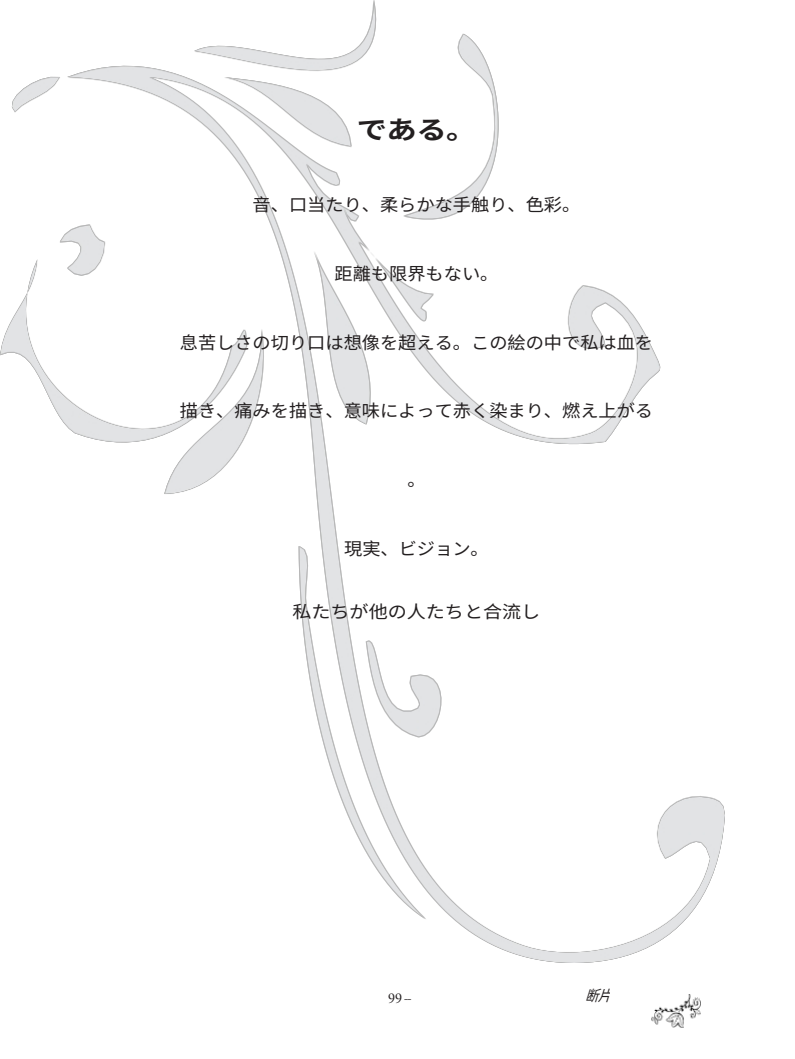
中断

もし私の中で魂が蒸発してしまったら、瓦礫しか残

らないだろう...秘密、ファンタジーとは異質なもの。

転覆から生まれた...また別のプライベートな瞬間の...のどこかが

浮かんでくる...。



である。

音、口当たり、柔らかな手触り、色彩。

距離も限界もない。

息苦しさの切り口は想像を超える。この絵の中で私は血を
描き、痛みを描き、意味によって赤く染まり、燃え上がる

。

現実、ビジョン。

私たちが他の人たちと合流し



一目でわかる信じ方

不純物が混入し、反転し、鏡のようになった存在を承認し
、奨励する。

私が感じているすべての傷

誰かの、恐れずに

鎖のない結び目のような、狂気と情熱のない、純粋な魂の慈

しみが、絡み合い、一体化している。

唯一の感覚は、欲しいということ

と、最終的に手に入れるというこ

とだ。

何でもない

欠席

もし私があなたの世界に触れ、見たなら、

私は不潔になるだろう。

私の現実を凌駕する。私の単純な悲

しみは、すべての幸福と同じ

達成可能なものも不可能なものもある。

皮肉もなく、魔法のように

ある日、私があなたにこう言ったら、私に

触れ、あなたが私をどう見ているかを感じ

じれば、私が誰でないのか、そして何が

何であるのかわかるだろう。



一緒にいるよ

燃え盛るマッチの中で、すべてが燃え尽

きるとき、私の中の痛みが燃え上がる。

私は決して連れ去ったりはしてい

ない。むしろ、私があなたを見捨

てず、いつも愛していることを知

っているからこそ、あなたは苦し

んでいるのだ。

愛しているよ

